

いろいろ聞くけど
本当はどうなの?

TOEIC & TOEFL 誌上体験

英語の実力を測るテストとして広く利用される TOEIC® テストと、
今、注目を集める TOEIC® SW (スピーキング / ライティング) テスト。

一方、留学を目指す人の登竜門として知られ、

大学入試への導入などにわかつに話題となった TOEFL® テスト。

実際、どのような試験で、どんな力を測ることができるのでしょうか。

この特集では、TOEIC および TOEFL それぞれの試験の特徴を検証し、
スピーキングテストの模擬問題を通して、その一部を体験します。

監修・執筆: 河野太一(河野塾塾長) ナレーション: Vicki Glass

「使える英語」を身に付ける 検定試験との 上手な付き合い方

現在、さまざまな英語検定試験が
「読む・書く・話す・聞く」の4技能を測るテスト形式を採用し、
英語コミュニケーション力の基準として利用されています。
その中でもTOEIC、TOEFLの試験は、実力を測定するだけでなく、
使える英語を身に付けるステップにもなるのです。

TOEFLが注目を集めたのはなぜ？

最近、大学入試や国家公務員の採用試験にTOEFLを導入する案が検討され、にわかにTOEFLが注目を集めるようになりました。これは一面では「時代の要請」「必然」ともいえる流れです。

よく言われるとおり、日本の大学入試はこれまで、文法・読解・英文和訳中心でした。近年になってリスニングも導入されているとはいえ、いまだ「知的パズル」としての側面が大きく、コミュニケーションの道具としての英語力を十分に測れる形態とはいえません。グローバル化の流れの中で、英語を「話す・聞く」能力が重視されるようになった今、「いっそのこと、留学のための試験であるTOEFLに切り替えよう。TOEFLにはリスニングもスピーキングも含まれているのだから」という考え方が出てくるのは理解できます。

一方で、私は現段階での大学入試へのTOEFL導入には慎重であるべき、とも考えます。もし日本の高校生が数多

くTOEFLを受験するようになら、受験場の確保や受験料（225 USドル。2013年8月現在）などの問題点がまず浮上します。さらに、TOEFLが非常に難易度の高い英語試験であることも懸念材料です。TOEICよりもはるかに難しく、**高得点を取るには英検1級と同等、またはそれ以上の実力が必要とされます。** そうした英語力付けるには、莫大な時間を英語学習に費やす必要があります。しかし、ほかの科目だって重要なですから、英語ばかりやるわけにもいかない……と考えると、一足飛びにTOEFLというのは厳しいように思います。

大学入試にTOEFLが正式に採用されるかどうかはまだわかりませんが、中学・高校ではあまり大きな目標を掲げるのではなく、むしろ、もっと発音を練習したり、英語を訳さずに読む訓練をしたりする基礎学習をしっかり行うことが、「使える英語」につながるのではないかと思います。



検定試験を通して 「本当に使える英語」に近づこう！

翻って、大学生や社会人の英語学習を考えたとき、TOEFLの活用はお薦めできます。というのは、高まるTOEIC熱のおかげか、最近はTOEICで高得点を取る人が増えてきたように感じます。800点台、900点台の人も珍しくなくなりました。しかし高得点保持者でも、自分の英語力に自信がなかったり、仕事で十分使える英語力ではないと感じていたりします。そうした人たちの次なる目標として、TOEFLは適していると思います。TOEFLは、TOEICのような「ビジネス英語」のテストではありませんが、**高度な英語力、特に高度なりスニング力が求められます**ので、これに向けて学習することは、一段上への英語力アップにつながります。スピーキングセクションもありますし、「問題先読み」などのテクニックも使えません。より本格的な英語力が試されるTOEFLを受け、もしかしたらガツンとやられることで(笑)、より英語学習に燃えられる、ということもあるでしょう。

スピーキングやライティングの力は試したいけれど、TOEFLはちょっとハードルが高いという人には、TOEICのSWテスト(Speaking and Writing Tests)を受けるのもお薦めです。私は常々、発

音学習や音読の重要性を説いているのですが、SWテストの、文章を読み上げる音読問題などで、こうした学習の成果を試すことができます。また「写真を描写する」「自分の意見を書く」などの問題に対処するには、**さまざまな表現をインプットし、それをアウトプットする学習が必要になります**。TOEFLほど難しくなく、努力が点数に反映されやすいので、初・中級者にはTOEFLへの橋渡しにもなると思います。

このほか、IELTSという留学用の試験もあります。英検1級も、高度で、かつスピーキング・ライティングが含まれる試験です。進学や就職、昇進、転勤などのために検定試験の結果を必要とされている方々に限らず、伝統的な日本の英語教育を受けてきた大学生・社会人にとって、こうした試験に取り組むことは新鮮でしょうし、それによって今後の学習の質も変わると思います。難しい英語試験にトライして一度は挫折し、そこで発音や音読の重要性に目覚め、文法や多読の大切さもあらためて実感する……こうしたプロセスの中で「本当に使える英語力」に近づく道筋が見えてくるのではないかでしょうか。



Profile 河野太一(こうのたい一)：河野塾塾長。早稲田大学政治経済学部中退。Seattle Central Community College卒業。半年間シアトルに留学した以外は日本で英語を身に付けた「国内派」。大手留学準備校でのTOEFL・GMAT講師を経て独立。河野塾では社会人向け発音講座なども行う(www.konojuku.com)。TOEFL iBT 116点、IELTS 8点、TOEIC 990点、TOEIC SWテスト各200点、英検1級。著書に『必ず覚えられるTOEFL®テスト英単語3400』『必ず聞き取れるTOEFL®テストリスニング』(いずれもアルク刊)など。

TOEIC/TOEFLって どんなテスト？

試験の概要

TOEIC は日常とビジネスのための英語力、TOEFL は留学に必要な英語力を測るものであるということは、よく知られているとおりです。単に想定されたシチュエーションが違うというだけでなく、問題形式、問われる能力、難度も異なります。

TOEIC は、しばらく、リスニングとリーディング（以下、LR）だけの試験でしたが、近年、スピーキング／ライティングテスト（以下、SW）が加わり、4 技能を測ることができるようになりました。LR と SW の試験は別に行われ、LR だけ、あるいは SW だけを受験することができます。LR はペーパーテストですが、SW はコンピューターに向かって受験します。試験時間は LR が 2 時間、SW が 80 分です。

TOEFL も、かつてはリスニングとリーディングだけでしたが、現在は iBT (Internet-Based Test) と呼ばれる 4 技能型のテストになり、試験会場のコンピューターの前で解答します。1 日で 4 技能すべての試験を行い（リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの順）、試験時間は約 4 時間半。解き終われば早く切り上げることもできますが、上級者でも 4 時間以内で終えることは難しいでしょう。TOEIC の LR テストが約 2 時間で、問題数が多く苦痛であるとよく言われますが、TOEFL はその倍以上の時間で、しかも内容はぐっと難しいので、さらに体力を消耗します。

スコア

TOEIC は LR テストが 990 点満点、SW テストが 400 点満点、TOEFL は 4 技能合わせて 120 点満点です。

TOEIC® テスト → 990 (495 + 495) 点

TOEIC® SW テスト → 400 (200 + 200) 点

TOEFL® テスト → 120 (30+30+30+30) 点

TOEIC と TOEFL の換算表などもありますが、テストの性質がかなり違いますので、正確な換算は難しいでしょう。ざっくりとした計算方法でよく使われるが、「TOEIC スコア (LR) の、最後の 1 ケタを取ると TOEFL スコアの目安になる」というものです。つまり、TOEIC で 800 点を所持している方は、TOEFL で 80 点を取るだろう、ということです。ただ、私が見てきた例からすると、さらに 10 点引いて、70 点くらいと考えるのが現実的だと思います。点数はその都度、ぶれが生じるものなので、低めに見積もっておいた方がいいでしょう。

TOEIC スコア (LR) の最後の 1 ケタを取る →

→ 10 を引く → TOEFL の参考スコア

TOEFL は 120 点満点ですから、TOEIC (LR) でなんとか 990 点を取ることができたとしても、TOEFL に換算すると 89 点で、まだ先があるということ

同じ4技能型のテストといっても、
TOEICとTOEFLは多くの点が異なります。
ここでは、問題形式、スコア、
出題される英語の特性、
難度など、さまざまな角度から、
両者の特徴を分析します。

です。それくらい、TOEICとTOEFLには難度に差があります。また、TOEICで990点満点を取得されている方はたくさんいますが、TOEFLで満点を取るのはかなり難しいです。

大学にもありますが、4年制学部への留学に必要なTOEFLスコアは80点というところが多いでしょう。大学院であれば100点は必要です。ハーバード・ビジネス・スクールは、最低109点は必要としていますが、実際に入学される方の点数は116点あたりからそれ以上で、この点数は近年、特に高くなってきたようです。

企業によって、昇進や海外赴任のために設定しているスコアは異なりますが、現実的に、海外に出て英語で戦える最低ラインを考えると、TOEICのLRテストで800点、SWテストで320点、TOEFLテストなら70点は必要だと思います。もちろん、それ以上の点を取るに越したことはありません。力試しとしてTOEICやTOEFLを受験される方も、まずはこの点数を目標にされてはいかがでしょうか。

海外で戦うために、せめて取っておきたい TOEIC/TOEFLスコア

TOEIC(LR)→800点
TOEIC(SW)→320点
TOEFL→70点

英語の特性

冒頭で述べたとおり、TOEICはビジネス色の強い試験、TOEFLは留学色の強い試験です。TOEICは日常や仕事上で十分なコミュニケーションが取れるか、TOEFLは学校やそれにまつわるシチュエーションで十分なコミュニケーションが取れるかが試されます。

TOEICでは、仕事上のやりとりはもちろん、空港や駅のアナウンスから、商店のセール情報、美術館の開館情報など、ビジネスと関係のない日常生活もシチュエーションとして登場します。一方、TOEFLは、大学の授業やキャンパスライフについていけるのかということを前提としていますので、文献を読む、講義を聞く、意見を言う、リポートを書く、先生や学生と話をする、といったことに関係するシチュエーションが中心です。

TOEICに出てくるような、ビジネスシーンで使う英語が簡単だというわけではありませんが、一般的な社会人で、普段から英語を使っていたり、英語の読み物やニュースに触れたりする機会があれば、とりわけ新しいジャンルの単語を覚えなければいけないということはありません。一方で、TOEFLに出てくるようなアカデミックな英語は、特に社会人であれば、普段ほとんど接していないなくても不思議ではありません。

そこで、ちょっとした単語テストをしてみましょう。次のページのQ1の単語は、TOEFL特有というわけではありませんが、難しさを知る上で参考になると思います。学部留学のラインとなる80点を目指すなら、すべて知っておきたい単語です。

TOEFL 単語テスト(80点レベル)

Q1. 次の単語の語義を答えなさい。

- | | |
|--------------|----------------|
| 1. analogy | 6. subsidiary |
| 2. impartial | 7. perish |
| 3. manifest | 8. mandatory |
| 4. initiate | 9. predominant |
| 5. annex | 10. transcend |

- A. 1.類似、例え 2.公平な、偏らない 3.明白な、明らかにする 4.始める 5.併合する、付け加える 6.付隨する、補助的な 7.死ぬ、消滅する 8.義務的な、強制的な 9.支配的な、優勢な 10.超える

どうでしたか? 自信のない単語がある、という人も多いのではないでしょうか。

TOEFLでさらに難しいのが、特定の分野の専門用語です。TOEFLでは、生物、化学、宇宙から宗教、政治、キャンパス用語まで、文系・理系のさまざまな単語が含まれています。次のような単語が、特に注釈もなく当然のように使われます。

TOEFL 単語テスト(分野別頻出単語)

Q2. 次の単語の語義を答えなさい。

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1. retina | 11. infrared |
| 2. chromosome | 12. sodium |
| 3. enzyme | 13. circumference |
| 4. germinate | 14. sovereign |
| 5. longitude | 15. referendum |
| 6. glacier | 16. polytheism |
| 7. avalanche | 17. cremate |
| 8. deforestation | 18. catharsis |
| 9. Mercury | 19. dean |
| 10. velocity | 20. subsidize |

- A. 1.網膜 2.染色体 3.酵素 4.発芽する 5.経度 6.氷河 7.雪崩 8.森林破壊、山林伐採 9.水星 10.速度 11.赤外線 12.ナトリウム 13.円周 14.主権を有する、君主の 15.国民投票 16.多神教 17.火葬にする 18.カタルシス、感情の浄化 19.学部長 20.助成金を出す

こちらはQ1よりだいぶ難しかったはずです。完璧に覚えた方がいいとまでは言いませんが、1つ聞き取れないだけで、メッセージ全体の内容理解に影響を及ぼすこともありますから、特に高得点を目指す方は、知っている方がいいのは確かです。

ただ、難しいとはいっても、日本語の語義を見てみれば、どれも常識の範囲内の単語ではないでしょうか。留学を考えていなくても、教養としてこのくらいはわかるようにしておきたい、と感じる人もいると思います。こういった単語を覚えておくことで、ニュースを聞いたり、テレビの科学番組を見たりするのも楽になり、また楽しめるでしょう。

日本では高校生の時点で、文系・理系にはっきりと分かれますので、余計に、縁のない分野の単語が難しく感じられるはずです。アメリカでは、文系・理系の区別なく、リベラルアーツ(一般教養)として、大学に入ってもさまざまな分野の授業を取ります。場合によっては、4年間すべてがリベラルアーツということもあります。ですから、アメリカの大学では、こういった単語の知識が必要となってくるわけです。

単語が難しいといっても、それぞれの分野についての前知識はあまり必要とされません。試験で読んだり聞いたりする内容は、専門的な知識がなくても理解できるものがほとんどです。心配な方は、中学で学ぶくらいの理系科目の内容は、踏まえておいた方がいいでしょう。



『必ず覚えられる

TOEFL®テスト英単語3400』

(アルク刊/2100円[税込])

TOEFL iBTスコア60、80、100レベル別に必要な「コア単語」と、専門分野別の単語をまとめた3400語を収録。語呂や語源など、単語を記憶に残すための「フック」を提示することにより、記憶への定着を促す。

TOEIC/TOEFLのリスニングとリーディング

各技能のテストについて、特徴を見ていきましょう。TOEICのリスニング・リーディングテストは全部で7つのパートから成っています。

TOEIC リスニングセクション(45分)

Part 1 写真描写問題／ 10問	1枚の写真について4つの短い説明文を聞き、最も的確に描写しているものを選ぶ。
Part 2 応答問題／30問	1つの質問（または文章）と、それに対する3つの応答を聞き、適切なものを選ぶ。
Part 3 会話問題／30問	2人の人物による会話を聞き、内容に関する3つの設問に対して、適当な選択肢を選ぶ。
Part 4 説明文問題／ 30問	アナウンスやナレーションを聞き、内容に関する3つの設問に対して、適切な選択肢を選ぶ。

TOEIC リーディングセクション(75分)

Part 5 短文穴埋め問題／ 40問	短文の空欄に当てはまる語句を、4つの選択肢から選ぶ。
Part 6 長文穴埋め問題／ 12問	長文中の複数の空欄に当てはまる語句を、それぞれ4つの選択肢から選ぶ。
Part 7 読解問題／48問	チラシ、案内、Eメールなど、さまざまな文書を読み、内容に関する設問に対して、4つの選択肢から適切なものを選ぶ。

基本的に、リスニングセクションもリーディングセクションも、根本的な英語力があれば十分、点を取ることができます。リスニングセクションのPart 2などは、短い問題を次から次へとこなしていくため、反射神経が問われ、問題慣れしているかどうかで点数が大きく変わります。Part 3やPart 4では、問題を先に読む「先読み」も有効ですから、やはり演習が有効です。

リーディングセクションについては、さらに演習がものをいいます。Part 5やPart 6は主に文法が問われますが、特に、600点ぐらいまでの人には文法もあやふや

な点があるはずです。問題を解きながら文法の力を付けるのもいいアイデアだと思います。考えたり、間違えたりする中で品詞の感覚などを養うことができ、文法の知識が膨らんでいくでしょう。また、Part 5やPart 6は毎回、似た問題が出ますから、問題形式に慣れておけば処理速度が速くなります。

Part 7の読解問題は、単純な読み物ばかりでなく、情報を羅列した資料などが出できます。隅々まで読んでいると時間がなくなりますから、必要な情報をサーチするような読み方をしなければなりません。つまり、設問を先に読んで、何が問われているかを知ってから、本文に答えを探しにいくのです。そういったプロセス自体にも慣れないといけません。問題でよく使われる表現に慣れるとという意味でも、TOEICは全般的に、問題演習の効果が高いといえます。

TOEFLは、先にリーディングのテストが行われます。TOEICのように、細かいパートには分かれていません。

TOEFL リーディング(60-80分)

3～4つのメッセージ、各12～14問。
さまざまな選択問題、文を適切な個所に挿入する問題、
グループ分けする問題など。

TOEFL リスニング(60-90分)

2～3つの会話(各5問)と4～6つの講義(各6問)。
さまざまな選択問題、表を完成させる問題など。

すでにお話ししたとおり、TOEFLでは、かなりアカデミックな英文を読むことになります。レベルとしては、アメリカの大学1～2年生が読むようなもの、あるいは、それより少し難しいくらいの英文です。長さも約700ワードと非常に長いです。

細かく見れば、さまざまな問題形式がありますが、TOEFLのリーディングでは、語彙問題を除いては、文章をしっかり理解して答えなければなりません。高校までに習う文法や構文を押さえ、語彙力を充実させておく

必要があります。その上で、多読などを通じて読解力を鍛えれば、30点中20点台後半が狙えます。一方、文を組み合わせて要約を作る問題や、文を適切な場所に挿入する問題は、少し特殊です。その辺りの多少のテクニックを押さえれば、30点満点も望めます。

リスニングに関して、TOEICと違うのは、メッセージが流れている間は問題が見えないということです(メモを取るのはOKです)。リスニング中は、状況を示すイメージ写真だけが画面に表示され、メッセージが終わってから問題が表示されます。つまり、設問の先読みができません。記憶とメモに頼らなければなりませんから、より純粋に、聞く力だけで勝負するテストになっています。

また、会話は約3分、講義は3~5分と、かなりの長さの英文を聞きます。リーディングと同様に、例えば太陽の黒点についての講義だったり、ある生物の生態についての講義だったりします。大半の問題は、論理展開を聞き取る問題です。講義では、構文が複雑で長めの文が使われることも多くありますので、そうした文を聞き取る力が必要になります。発音はかなりナチュラルです。日頃、いかにも教材らしい、プロのナレーターによる音声ばかり聞いていると、対応できません。

なお、TOEFLではメモを取ることが許可されていますが、リスニングでのメモ取りはあまりお勧めしません。というのは、メモを取るということは、意識が分散されることを意味するからです。書いている間に音声を聞き逃した、ということはよくあります。とはいっても、「覚えよう」としそうると、かえって覚えられません。まずは「理解する」ことを心掛けましょう。長い英文でも、隅々まで理解できれば、解答できる程度には記憶に残るものです。

TOEIC/TOEFLのスピーキングとライティング

スピーキングとライティングについても、見ていきましょう。英検やIELTSは面接官の前で話しますが、TOEICもTOEFLも、コンピューターに向かって話し、声を録音し、それを複数の採点官が聞いて判定します。

TOEICのSWテストは以下のようないくつかの問題形式です。

TOEIC スピーキングテスト(20分)

音読問題／2問	アナウンス、広告などの短い英文を音読する。
写真描写問題／1問	写真を見て内容を説明する。
応答問題／3問	身近な話題について、インタビューに答える。
提示された情報に基づく応答問題／3問	資料の内容に関する質問に答える。
解決策を提案する問題／1問	留守番電話のメッセージなどを聞き、相手の問題に対する解決策を提示する。
意見を述べる問題／1問	あるテーマについて、自分の意見とその理由を述べる。

TOEIC ライティングテスト(60分)

写真描写問題／5問	与えられた2つの語句を使い、写真を説明する1文を作成する。
Eメール作成問題／2問	短いEメールを読み、返信を作成する。
意見を記述する問題／1問	提示されたテーマについて、自分の意見を、理由あるいは例と共に記述する。

TOEICのSWテストは、スピーキングに自信がない方にもぜひ挑戦していただきたいテストです。TOEFLのスピーキングは、要求される能力が極めて高く、満点を取るのは難しいですが、TOEICは点数が取りやすく、満点も十分に狙えます。ライティングも同じく、満点を狙うことができます。SWテストを活用して、4技能をバランス良く上げていきましょう。

写真描写問題などは単純に見えますが、英語で何かを描写する練習は、普段なかなかやらないものですから、意外と難しいです。ライティングテストのEメールも、ビジネス寄りのTOEICらしい問題ですが、仕事で英文メールを書く機会がない方は苦戦するはずです。

対策としてはまず、問題集を使って、解答例を覚えてしまうことです。写真描写であれば、リスニングのPart 1に出てきた写真描写問題のナレーションも参考

になります。正解以外の選択肢も、描写するための表現が使われますから、十分役に立ちます。Eメールであれば、リーディングのPart7にも文例が出てきますし、Eメール文例集のような書籍を使ってもいいでしょう。そこに出でてくる英文を丸ごと音読して覚えてしまうことで、定番の表現を使いこなせるようになります。

ライティングだから音読は関係ないと思われるかもしれません、目で覚えただけでは、表現はなかなか出でこないものです。それに、初級者の方は助動詞や完了形を効果的に使うことができません。やはり、実際に使われている文章を覚えるのが一番です。Part1とPart7以外も表現の宝庫ですから、問題集は暗唱するところまで使い倒してほしいと思います。

スピーキングでは、聞き取りやすさも採点に関わりますから、TOEIC/TOEFLに関係なく、発音が重要です。ネイティブ級とはいかないまでも、通じやすい発音を目指しましょう。訛りはあっても、ネイティブが聞き取りに苦労しないレベルには上げておきたいところです。l/r、thなどといった音素レベルから、センテンスで生じる音の変化まで、十分にトレーニングしましょう。そのためにも、習慣的な音読とシャドーイング、そして暗唱をお勧めします。音読～暗唱を続けると、あらゆる技能に効果が現れます。

TOEFLのスピーキングおよびライティングセクションは、次のような内容です。なお、スピーキングの前に10分の休憩時間が設けられています。

TOEFL スピーキング(約20分)

Independent Tasks / 2問

Task 1 あるテーマに対して、意見と理由を答える。

Task 2 2つの意見のうち、支持する意見とその理由を答える。

Integrated Tasks / 4問

Task 3 パッセージを読み、それに関する会話を聞き、要約する。

Task 4 パッセージを読み、それに関する講義を聞き、内容を説明する。

Task 5 会話を聞き、2つの提案についてどちらを支持するかを答える。

Task 6 講義を聞き、指示に従って内容を説明する。

TOEFL ライティング(50分)

Integrated Task / 1問

Task 1 パッセージを読み、それに関する講義を聞き、内容を説明する。

Independent Task / 1問

Task 2 テーマについての意見を書く。

TOEIC以外の検定試験と比較しても特にTOEFLが特殊なのは、この中のIntegrated Tasks(統合型問題)です。例えばスピーキングのTask3では、短い英文を読み、それに関する会話を聞いて、両方の内容を口頭で要約しなければなりません。ライティングのTask1も、講義を聞いて、その内容を要約します。つまり、リーディングセクション以外は、すべてリスニングが絡んでくることになります。会話は主に大学生活に関する日常的なものですが、講義の内容は例によってアカデミックなものですから、かなりハイレベルのリスニング力が求められます。聞き取れなければ、答えようがありません。

受験してみるとよくわかりますが、根本的な英語力をかなりのレベルまで高めておかないと、TOEFLは歯が立ちません。点を取ろうとすると、どうしても問題を数多く解こうとしてしまいますが、TOEFLに関しては、テクニック的な対策にとらわれるとむしろ遠回りになる、ということを覚えておきましょう。TOEICでテクニックに走ってしまった人は、TOEFLの難しさに当たって、「本来の英語力を鍛えよう」と思うかもしれません。そもそもTOEICも、本来の英語力を上げていけば高得点が取れるのですから。

最後にもう一つ、TOEICやTOEFLに関係なく、スピーキングに役立つ練習方法をお伝えします。それは、自分の身の回りの物事を英語に置き換えてみること。電車の中で、人が乗り降りする様子を描写してみたり、お風呂の中でその日の出来事を英語にしてみたりするといいでしょう。TOEICの写真描写問題の直接的な対策になりますし、英文を組み立てる基礎的な練習になります。

次のパートでは、TOEICとTOEFLで非常によく似た形で出題される、「意見を述べる問題」を実際に体験してみましょう。意見を簡潔に述べる話し方のヒントになると思います。

TOEIC/TOEFLを受験しよう! [近日の開催情報]

TOEIC®テスト 試験日 10月27日(日)

申込締切 9月17日(火)15:00

TOEIC®SWテスト 試験日 10月6日(日)

申込締切 9月20日(金)15:00

TOEFL®テスト 試験日 9月28日(土)、9月29日(日)、10月12日(土)

申込締切 受験日の7日前まで

[申し込み方法、問い合わせ]

TOEIC®テスト、TOEIC®SWテスト <http://www.toeic.or.jp/>

TOEFL®テスト <http://www.cieej.or.jp/toefl/>

TOEIC&TOEFL スピーキング問題にチャレ

Question 1：意見を伝える基本形

日本人にとって難しいのは、何といってもスピーキング。そこで実際に、TOEIC や TOEFL で問われるのに近い形で、問題を解いてみましょう。実際はコンピューターに向かって録音し、画面に英文や制限時間などが表示されますが、ここでは音声だけを聞いて解答する形にアレンジしています。まずは何も準備せず、次の問題にチャレンジしてみてください。

Q.  Track 32

※考えたり、解答したりする時間もトラックに含まれています。

CD の指示に従って、15 秒であなたの意見を考え、60 秒で答えましょう。

いかがでしたか。意見を述べる問題は、制限時間などの違いはありますが、TOEIC スピーキングテストと TOEFL のスピーキングテストの両方で、よく似た形で出題されます。この Question 1 は、TOEIC スピーキングテストの 6 問目の指示文と制限時間（60 秒）に合わせて作成されています（TOEFL では、解答時間は 45 秒）。まずは指示文を見てみましょう。

In this part of the test, you will give your opinion about a specific topic. Be sure to say as much as you can in the time allowed. You will have 15 seconds to prepare. Then you will have 60 seconds to speak.

テストのこのパートでは、特定のトピックについてあなたの意見を述べます。時間の許す限り、できるだけ多くのことを話しましょう。準備時間は 15 秒、解答時間は 60 秒です。

“say as much as you can in the time allowed” とっても、とにかく多くのことを早口で詰め込んで話すの

がいいということではなく、途中で早々と終わらせずに、時間をたっぷり使って話しましょう、という程度の注意だと思われます。

質問はこのような内容でした。

Many people think you should always tell the truth. Others believe that it is sometimes necessary to lie to avoid possible problems. Which opinion do you agree with and why?

多くの人は、常に本当のことを言うべきだと考えています。一方、起きた問題を避けるために、時にはうそをつくことも必要だと考える人もいます。あなたはどちらの意見に賛成しますか、また、それはなぜですか。

典型的な質問は、このように「2 つの意見のうち、どちらに同意するか（あるいは、どちらを薦めるか）」「ある意見に賛成か、あるいは反対か」を尋ねるものです。TOEFL の Task 2 も、常にこのような形式の質問が与えられます。

TOEIC の SW テストや TOEFL の受験歴がなくて、訓練なしに流暢に答えられたという人は、かなりの上級者でしょう。初めて体験する人は、この時間制限の中ではなかなか上手に話すことができません。うまく話せなかったという人は、質問でも示されているとおり、まずは次の骨格を作ることから始めます。

自分の意見
↓
そう思う理由

ンジ!

実際に、TOEIC & TOEFL に出題されるスピーキング問題にチャレンジしてみましょう。ここでは、TOEIC® SW テストと TOEFL® テストの両者で問われる、「意見を述べる問題」を取り上げます。自分の考えを、説得力を伴って説明するための訓練にもなります。

これはテストに関係なく、意見をわかりやすく伝えるための基本的な形といえますね。長い前置きの後に本題に入るというのが、日本人の典型的な話し方ですが、結論を先に言ってから理由を述べる、というのが英語の基本です。この順序を習慣にしてしまいましょう。

説得力を持たせるためには、理由を複数挙げることが望ましいです。さらに、その理由に具体例を添えると説得力が増します。制限時間から考えると、理由は2つ用意するのが妥当でしょう。もちろん、3つ以上挙げてもかまいません。話の流れを明確にするために、First,(初めに)、Second,(次に)といった言葉を使うとよりわかりやすくなります。

話の構造を図式化すると、次のようにになります。

自分の意見

First, . . . (1つ目の理由+具体例)
Second, . . . (2つ目の理由+具体例)
(For these reasons, . . .
[意見を再度述べる])

これは、TOEFL指導で一般的に「テンプレート」と呼ばれるもので、TOEICでも生かすことができます。右上の解答例も、このテンプレートに基づいていますので参考にしてください。CDではスラスラと話しているので、時間的には短めになっていますが、即興で考えて話すことを考慮すれば、最初はこれくらいの内容が精いっぱいでしょう。

[Question 1 解答例] Track 33

I agree with the statement that people should always tell the truth. First, when people are not truthful, they lose their integrity. It is hard for others to trust people who lie or do not tell the entire truth. Second, always telling the truth just makes life easier. For example, you don't have to try to remember any lies you told. You don't have to lose sleep worrying that people might find out the truth one day either. For these reasons, I agree that people should always tell the truth.

人は常に本当のことを言うべきだ、という意見に賛成です。まず、人は正直でないと、誠実さを失ってしまうからです。他人からすると、嘘をつき、本当のことを言わない人を信じるのは、難しいことです。次に、常に本当のことを言うことで、生活が楽になります。例えば、ついた嘘をすべて覚えておこうとする必要がありません。誰かがある日、その嘘を見抜くのではないかと心配して眠れないこともあります。こういった理由から、人は常に本当のことを言うべきだということに賛成します。

ここがポイント！ 1

「意見 → 理由」の
骨格が大事

Question 2：十分な理由を用意しよう

同じ形式でもう1問、チャレンジしてみましょう。「自分の意見→そう思う理由」の骨格を意識してください。

Q.  Track 34

CDの指示に従って、15秒であなたの意見を考え、60秒で答えましょう。

テンプレートを使って、Question 1よりもスムーズに解答することができたでしょうか。

Question 1でも感じられたかもしれません、質問の内容が「普段、そういうことについて考えたことがない」というものであることは、多々あります。また、「どちらの立場とも言いにくい」ということもよくあります。慣れていないと、英文を組み立てるどころか、言うことを考えるだけで時間が過ぎてしまいます。しかし、TOEICでもTOEFLでも、何を主張しているかは採点の対象にはなりません。それよりも、主張していることに対して、きちんと理由や具体例が述べられているかどうかが見られます。筋道が通っていて、間違いの少ない英語で説明されていれば、十分に点を取ることができるのです。正直に自分の気持ちと向き合っていると、すぐに時間がなくなりますから、仮に自分の本心に反していても、「複数の理由を挙げて、筋道が通るように説明できる」ような意見を選んで、答えましょう。

今回は、次のような質問でした。

Some people like to attend live music performances. Others prefer to stay at home and listen to recorded music. Which do you think is better and why?

生演奏を聞くことを好む人がいる。一方で、録音された音楽を自宅で聞くことを好む人もいる。あなたはどちらの方がいいと思いますか、また、それはなぜですか。

この質問は、ビジネスにも学校生活にも関係がありますが、TOEICでもTOEFLでも、このようなトピックの問題は出題されます。実際、生演奏も録音された音楽(CDなどのことですね)も、それぞれに利点がある

はずです。15秒の間に、「十分語れそうな2つの利点」が挙げられるのはどちらかを、判断しましょう。解答例は生演奏を支持していますが、自宅で音楽を聞くことの利点を挙げるなら、「周囲の雑音に惑わされずに音楽を楽しめる」「好きな音楽を好きなタイミングで聞くことができる」など、いろいろ考えられるでしょう。

もちろん、自分の経験から話を組み立てた方が、リアリティーがありますし、具体例も挙げやすいと思います。ですが、もしものときの保険として、創作で答えるような覚悟もしておくとよいでしょう。

[Question 2 解答例]

 Track 35

I prefer to attend live music performances. First, when I attend a live music performance, it creates memories. In contrast, I would never remember just another night sitting at home, listening to a CD. I am much more likely to remember the fun and the energy of a live performance, even if I forget the details. Second, listening to live music connects you to others. For example, a sense of community arises when you are all cheering or moving to the same sounds. Everyone is sharing moments that can never be repeated. For these reasons, I prefer to attend live music performances.

私は生演奏を聞く方が好きです。まず、生演奏を聞くと、記憶が形成されます。対照的に、自宅でCDを聞いた夜を思い出すことはまったくありません。生演奏の楽しさとエネルギーの方が、細部は忘れたとしても、ずっと記憶に残ります。次に、生演奏を聞くことで、他人とつながることができます。例えば、同じ音楽に対して皆で騒いで、体を動かすと、一体感が生まれます。皆が決して繰り返されることのない瞬間を共有しているのです。そういう理由から、生演奏を聞く方が好きです。

ここがポイント！2

筋道が通っている
ことが第一！

Question 3：基本を押さえ、確実に

今度は TOEFL の Task 1 形式の問題にチャレンジしましょう。意見を述べるという点は、これまでどおり。考える時間は同じ 15 秒ですが、話す時間は 45 秒と少し短くなります。また、質問の形式も少し異なります。

Q.  Track 36

CD の指示に従って、15 秒であなたの意見を考え、45 秒で答えましょう。

指示文は以下のとおりです。

In this question, you will be asked to talk about a familiar topic. After you hear the question, you will have 15 seconds to prepare your response and 45 seconds to speak.

この問題では、身近な話題について問われます。質問を聞いた後、15 秒で準備し、45 秒で話します。

問題は次のようになっていました。

Describe a job that you respect but would not want to do. Include details and examples to support your explanation.

あなたが思う、尊敬するけれども、やってみたくない仕事について、説明しなさい。説明を裏付ける詳細や具体例を含めなさい。

Question 1 や 2 と違って、2 つの意見のうち一方を選ぶのではなく、受験者が「何を良いと思うか」といった、よりオープンな解答が求められています。例えば「最近聞いた中で、最も重大なニュースは何か」「学校で良い成績を取るためにどうするのがいいか」といったことが問われます。自由である分、アイデアをまとめるのは難しくなります。

テンプレートは、同じように使用できます。ただ、テンプレートどおりに話さないといけないわけではありません。テンプレートを踏襲していくなくても、十分に点を取ることができます。その人の言葉で話していく、かつわかりやすい、というのが理想的です。しかしそれをア

ドリブで行うのは難しく、考え込んで黙ってしまっては本末転倒です。テンプレートはその点、話の構成に悩まなくてよいという利点があります。初めのうちはテンプレートを土台にし、本番では多少そこから離れても気にしない、という気持ちで臨むのがいいでしょう。

採点官に受けの良い表現というのは特にありません。中学英語でも十分に点が取れます。ただ一方で、表現の豊富さも評価基準には入っていますから、同じ表現を繰り返すよりはバリエーションを与えられる方がいいのは確かです。まずは自分の守備範囲の言葉でしっかりと伝えることを優先し、その後、言い換え練習などを通じて、使える表現を増やしていくとよいでしょう。

[Question 3 解答例]

 Track 37

A job that I respect but would not want to do is air traffic controlling. First of all, air traffic controllers have great responsibility. To be specific, they are accountable for the lives of thousands of people every day as they work to keep aircraft at a safe distance from each other. I would not want that pressure. Second, it is a stressful job. For example, they need to make many vital decisions every day. They need to stay aware of many situations at the same time. This can be very challenging. For these reasons, I think I would not want to be an air traffic controller.

私が尊敬するけれどもやりたくない仕事は、航空管制です。まず、管制官は大きな責任を負っています。具体的には、彼らは何千もの人々の命に責任を負っています。毎日、飛行機に互いに安全な飛行間隔を保たせることで。そうしたプレッシャーは望みません。次に、それはストレスの多い仕事です。例えば、彼らは毎日、多くの重大な決定を下さなければなりません。同時に多くの場所に目を光らせていかなければならないのです。とても大変なことになります。これらの理由から、航空管制官になりたいとは思いません。

ここがポイント！3

**使いこなせる範囲の
英語で、確実に話す！**

Question 4：繰り返しで上達する

最後に、Question 3と同じ形式でもう1問、練習しておきましょう。

Q.  Track 38

CDの指示に従って、15秒であなたの意見を考え、45秒で答えましょう。

Question 3よりもさらに自由な解答ができる問題でした。どんな解答を思い付きましたか？質問は以下の通りです。

What quality is most important in a working environment? Explain why it is so important. Include details and examples to support your explanation.

労働環境において最も大事な要素は何ですか？なぜそれが重要なのか説明しなさい。説明を裏付ける詳細や具体例を含めなさい。

解答例は、morale（士気）が最も大事である、という内容になっています。「人間関係が大事」とてもいいし、「快適なオフィス」というのも例を挙げやすいのではないでしょうか。「給料が大事だ」というのも十分、説得力を持たせられると思います。

Question 3で「使いこなせる言葉で確実に話そう」と言いましたが、解答中、自分の話した英語の間違いに気付くことがあります。were とすべき所で was と言ってしまったり、複数形の s が抜けてしまったり。ただ、その間違いが重大な誤解を招くのでなければ、わざわざ正しい形で言い直さない方がいいでしょう。多少の文法の間違いがあっても、トータルでうまく伝えることができれば良い点が取れます。ですから、できるだけリラックスして解答しましょう。

最後に、解いた後の練習方法についてお伝えしておきましょう。よほどの上級者でなければ、なかなか思いどおりに話せないのが普通だと思います。そこで大事なのが、次々と新しい問題にトライするのではなく、まずは同じ問題で、スムーズに話せるまで何度も練習すること

です。アイデアを改善し、英文の組み立ての精度を上げて、制限時間内にきっちり話し切るところまで練習しましょう。新しい問題に取り組むのは、それからでいいのです。

できれば、指導者に英語を直してもらうのがベストです。ミスがなく、かつ英語として自然な表現ができるようになるためには、独学での上達は限界があると思います。知人、教室、インターネットの英会話などを駆使して、自分の話す英語に磨きを掛けましょう。

[Question 4 解答例]

 Track 39

I think that morale is the most important quality in a working environment. First, good workplace morale means workers are more productive. For example, when workers feel respected, they feel more motivated to do their jobs well. They are happier to come to work each day and are less likely to be absent. Second, good workplace morale helps a company to achieve its goals. To be specific, a positive morale is likely to promote better teamwork. Employees trust each other and are comfortable in working and discussing things together. For these reasons, I think morale is the most important quality in a working environment.

私は、士気が、労働環境において最も大事な要素だと思います。まず、良い職場の士気は、従業員の生産性アップを意味します。例えば、従業員が尊重されていると感じれば、仕事をよりよくこなそうという気持ちが高まります。毎日の出勤が楽しくなり、欠勤することも少なくなるでしょう。次に、良い職場の士気は、企業の目標達成に寄与します。具体的に言うと、ポジティブな士気は、よりよいチームワークを促進します。従業員は互いを尊重し、共に働いて議論することを快く感じます。これらの理由から、士気が労働環境で最も重要なと思います。

ここがポイント！4

スムーズに話せるまで
反復練習しよう！

EJをTOEIC&TOEFL対策に活用しよう!

今回体験していただいたのはTOEIC/TOEFLのほんの一部でしたが、初めての方にはかなり、やり応えがあったことと思います。読者の中には、TOEICは知っていてもTOEFLは初めて、という方もいらっしゃると思いますが、実際触れてみると、難しいながらも挑戦しがいのある試験だと感じていただけたのではないかでしょうか。

これまで日本人は「英語を話すのが苦手」と言われてきて、実際そうであったわけですが、最近は間違いを気にせず積極的に話す方も増えてきました。TOEIC/TOEFLのようなテストでも、「完璧な英語」を求められるわけではありませんから、積極的にトライしてほしいと思いますし、高得点を取るのには長い海外経験が必須というわけでもないのです。

私自身、半年だけ留学をしましたが、それ以外は日本で勉強を続けてきた「国内派」です。それでもTOEICはSWも含めて満点、TOEFL iBTでは116点を取っています。特にTOEICは特別な対策をせず、発音を学び、洋書や映画で学習するうちに満点を取りました。その経験から言えるのは、**英語力そのものを上げていけば、試験でも高得点が取れる**ということです。

一方、テストや参考書に出てくるような英語ばかりに触れていても、力は伸びないともいえます。リーディングについていえば、今まで読んだのは大学受験の長文とTOEICのPart 7だけ、というのでは寂しいですね。推理小説でも何でも構わないので、洋書を2冊、3冊……と読んでほしいと思います。映画やドラマを見るのも、リスニングやスピーキングに役立ちます。共通点は、作り込まれた「教材の英語」ではないということ。実際、独学で点数が取れてしまう人は、こうした容赦のない素材に大量に触れていることが多いです。その意味で、EJのインタビューも絶好の素材です。生の表現に溢れていますし、話者のジャンルや国籍もさまざまです。「英語で戦わなければいけない」人は、試験テクニックを磨いて点を取るよりも、こうした教材で「生の英語の世界」に常に触れてほしいですね。

とはいっても、高度な英語力を付けるなら「触れるだけ」では不十分です(笑)。私は日頃の指導で、**シャドーイング・音読・暗唱**のプロセスを重視しています。EJの

素材でシャドーイングするなら、そのスピーカーになりきって、話し方の特徴までまねします。音読では、自分でペースを決め、発音をチェックしたり、文法構造を考えたりしながら読みます。こうしたことを何度も繰り返し、最終的に1つのインタビューを暗唱するところまでやれば、4技能すべてが伸びていきます。1つのコンテンツに詰まった栄養素をとことん絞り尽くすことの効果は計り知れません。

こうやって表現を蓄えていくと、言いたいことをすべて表現できないまでも、7~8割ぐらいのことは伝えられるようになります。外国語のスピーキングとは、煎じ詰めれば「覚えた表現を使う」ことに尽きます。構文や表現がスムーズに出てくるまで何度も練習し、「これだったら言える」というストックを増やすこと以外に、話せるようになる道はないのです。

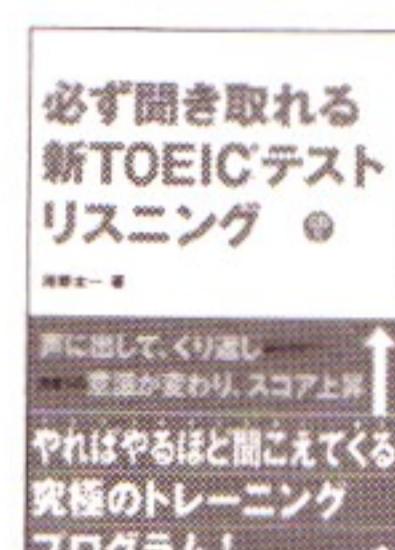
正面切った方法が、実は活路を開いてくれるというのは、私の体験からも言えることです。完璧を目指さず、しかし貪欲に英語を吸収し発信して、「本物の英語力」を付けていきましょう。その結果としてTOEICやTOEFLで高得点を獲得できれば、何よりです。



『必ず聞き取れるTOEFL®テストリスニング』

(河野太一著/アルク刊/2100円[税込])

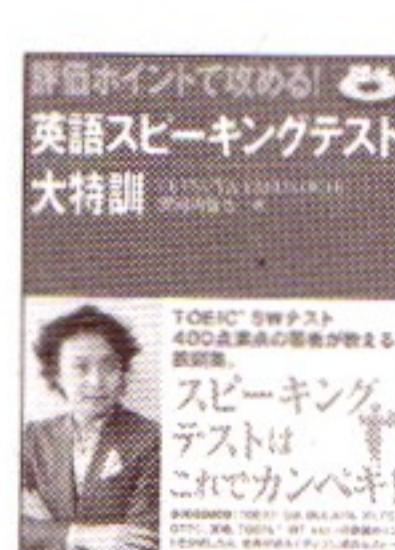
断片的に聞こえた単語を組み合わせて類推する「単語レベルのリスニング」を脱却。シャドーイング、暗唱、音読など、複数の訓練法を組み合わせ、「構文レベル」さらには「論理レベル」のリスニングを目指す。



『必ず聞き取れる新TOEIC®テストリスニング』

(河野太一著/アルク刊/1890円[税込])

「問題を大量に解く」といった定番のTOEIC対策から視点を転換し、英文に含まれるエッセンスを最大限吸収するトレーニングを通して、「リスニング力そのものの向上」を実現する。



『評価ポイントで攻める! 英語スピーキングテスト大特訓』

(安河内哲也著/アルク刊/2310円[税込])

相手に伝わる英語を話すコツを、英語スピーキングテストの伝道師、安河内哲也先生が大公開! TOEIC SWテストをはじめとする、さまざまなスピーキングテストに役立つ発話力を磨く。

*アルクの会報誌『マガジンアルク』9-10月号でも、TOEFL、TOEIC SWテスト、TSST(アルクの英語スピーキングテスト)を特集しています。
<http://www.alc.co.jp/m-alc/>



特別付録& 特別プレゼント

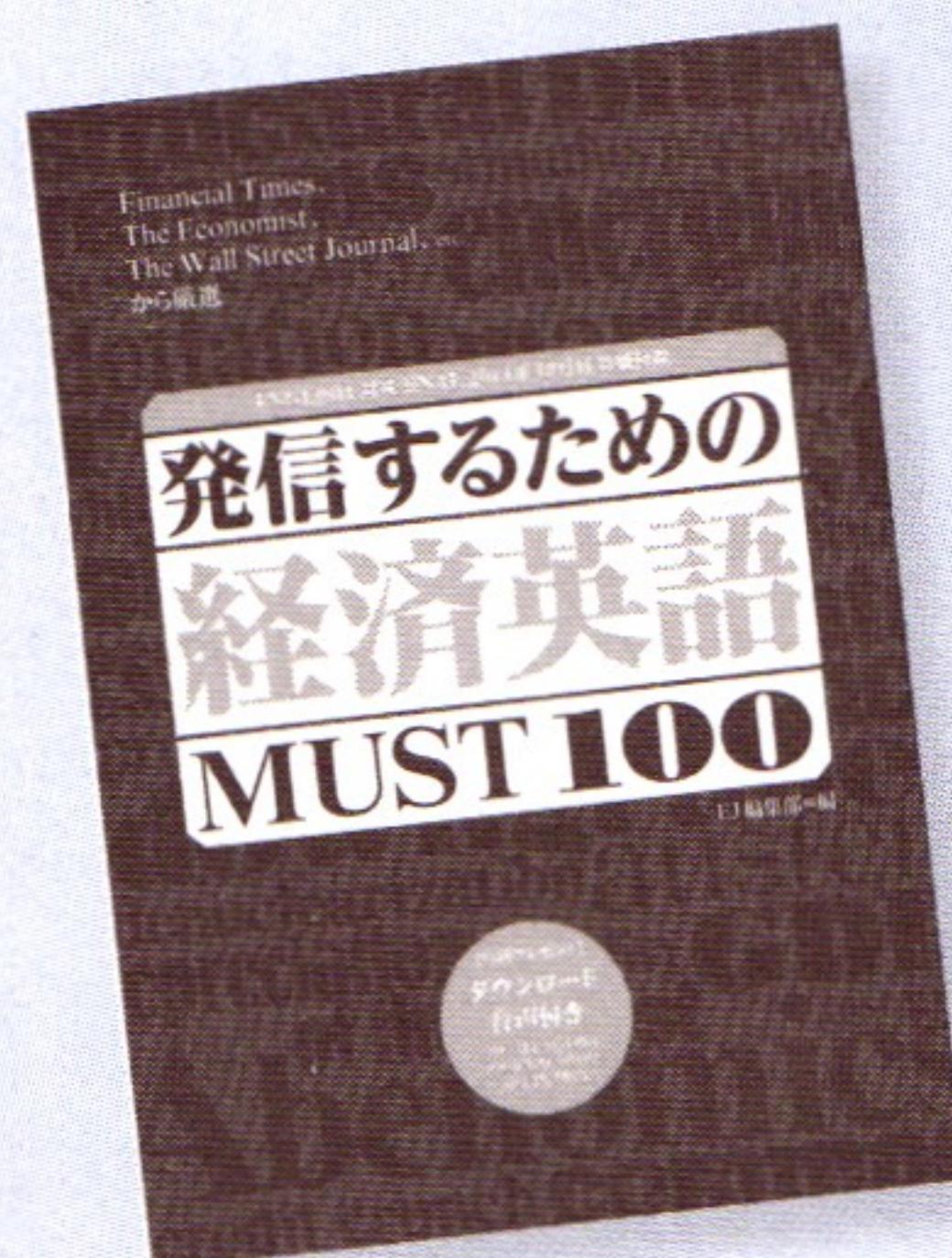
ご愛読の皆さんに、学習にすぐ役立つ特別付録&特別プレゼントをお贈りします！

特別付録

1

別冊 『The Voice of EJ 精選 ネイティブが好んで使う 頻出重要英単語 Vol. 9』

ENGLISH JOURNAL の The Voice of EJ (CD 収録英文) の中の重要単語やフレーズを例文と共に紹介する、大好評連載「今月の重要表現ピックアップ」。2013 年 4 ~ 9 月号掲載分の 376 語を、1 冊にまとめました。連載には掲載されていない発音記号も付き※、学習にますます便利になっています。※一部フレーズを除きます。



特別付録

2

綴じ込み付録

『発信するための経済英語 MUST100』

経済・金融関連の英文記事を読むためには、この分野に特化した英語の語彙や表現の知識が欠かせません。本書では、Financial Times、The Economist、WSJ (The Wall Street Journal) などから、今年のニュースに頻出の語彙・表現を 100 個厳選。1 つの例文の中で 2 個ずつ、効率よく覚えます。また、音声を使って正しい発音を身に付ければ、リスニングやスピーキングにも劇的な効果があります。



「特別付録 1、2」の音声ダウンロード特典

『ネイティブが好んで使う頻出重要英単語 Vol. 9』と『発信するための経済英語 MUST100』の音声(MP3 形式)をダウンロードプレゼント！ 音声を使って学習すれば、重要語彙・表現がより深く記憶に定着すると同時に、「インプットした、知識としての表現」から「アウトプットできる、使える表現」に変わります。

特別プレゼント応募方法

ENGLISH JOURNAL のウェブサイト (<http://www.alc.co.jp/ej/>) の「10月号特別プレゼント音声ダウンロード」にアクセス。応募フォームに必要事項を入力の上、ご応募ください。応募には右の「特別プレゼント応募用キーワード」が必要です。応募完了後すぐに、音声ダウンロード用の URL をメールでお知らせします。

■応募締め切り 2013年10月18日(金) 17:00

■ダウンロード締め切り 2013年10月31日(木) 17:00

「特別プレゼント応募用キーワード」

ss_ej1310